

兵庫県丹波地域合同防災訓練 要援護者避難訓練を実施

9月3日、丹波市・篠山市の両市内で住民・消防・警察や市外の行政職員などが参加し「兵庫県丹波地域合同防災訓練」が開催されました。市島地域では、災害時に避難支援が必要な人への対応や要援護者の避難所を開設。参加者は「多くの人と協力して訓練ができた。今後も定期的な訓練が大切だと思う」と話しました。



福祉避難所へ要援護者を運ぶ参加者たち

B & G全国ジュニア水泳競技大会 5位・7位・8位入賞!



快挙を成し遂げ笑顔の選手たち

8月19日、東京で行われたB & G全国ジュニア水泳競技大会で入賞の快挙を成し遂げました。足立濤音さん(青垣小6年)が自由形で5位・バタフライで8位、県代表メドレーリレーで7位、林優利くん(竹田小3年)が背泳ぎで5位、坂東作乃助くん(吉見小4年)が平泳ぎで7位、村岡紗弥さん(上久下小4年)が背泳ぎで8位に輝きました。

農産物の海外輸出をめざして 香港での視察を実施!



香港の食料品店で日本産農産物の販売状況を調査

丹波栗・丹波黒大豆・丹波大納言小豆などの農産物の海外輸出をめざし、市と丹波ひかみ農協の職員が、香港で調査を行いました。

調査をした市の職員は、日本の食材が食料品店で数多く販売されており、売り込みには他地域との差別化できる戦略が必要だと市長に報告。市長は「長期的に戦略を練って取り組むべき事項。まずは10年計画を立てて欲しい」と応じました。

映画「恐竜の詩」 300人規模のロケ敢行!

8月25日、撮影が進む映画「恐竜の詩」の中で、これまでで最大規模の撮影が、元気村かみくげ・丹波竜化石工房ちーたんの館・やまなみホールの3カ所で行われました。

50人を越える子どもたちをはじめ、300人を越えるエキストラが参加しました。宍粟市や西脇市など、市外からの参加者も。真夏の暑い中での撮影でしたが、現場は大いに盛り上がりました。



ちーたんと一緒に撮影に参加する子どもたち

丹波市豪雨災害復興3年イベント「和一处」 シンポジウムを開催

8月26・27日、豪雨災害からの復興を願うイベント「和一处」がライブピアいちじま周辺で開催されました。26日は、実行委員会主催の被災地間交流イベントや芝生イベントが開催され、27日は市主催のシンポジウムが行われました。

シンポジウムでは、地域のにぎわいや持続性ある活力社会の実現をめざして新たなまちづくりを発信し、市全体のまちづくりを考えました。

1部は、徳島大学大学院准教授田口太郎さんによる「市民による復興まちづくりの意義」と題した基調講演。

2部は、被災地域の復興への取り組みを自治会・団体・大学生など代表のパネリスト4人が紹介。関西大学の岡教授をコーディネーターに、丹波の地域資源やこれからの課題について、ディスカッションしました。地域の景観形成、市の魅力発信、交流人口の増加につながる取り組みなど広く発信しました。人と人とのつながり、地域が主体的に取り組むことが大切であり、それが新たなまちづくりにつながることを共有しました。

丹波布の魅力発信! 地域おこし協力隊に西尾さん

9月1日、地域活性化を担う「地域おこし協力隊」の隊員として、西尾真澄さんが着任しました。任務は丹波布の魅力発信など伝統技術を生かしたまちづくりです。

西尾さんは「大学では、日々の暮らしの工芸品、特に紙や布について学んだ。中でも、丹波布は色あいや風合いが優しく、心が落ち着く。たくさんの人に広めたい」と丹波布のよさを語りました。



丹波布について意見を交換する西尾隊員(写真右)



基調講演を行う田口太郎徳島大学大学院准教授



それぞれの立場から意見を発表するパネリストたち

市長と高校生が市の未来を語り合う タウンミーティング



アイデアを出し合う高校生を見守る谷口市長(写真中央)

8月19日、市民のニーズ・意見を市政に反映させるため、タウンミーティングが開催されました。第1回目は「暮らし続けたいまちにするアイデア貯金箱」と題して、市内在住の高校生27人が集まりアイデアを出し合いました。参加した高校生は「とても楽しかった。違う高校の生徒同士で市の未来について話すことは貴重な経験だった」と笑顔で答えてくれました。